



今月の便り

梵天の木？

世界の各地で排気ガスなどに強いこともあり街路樹として数多く植えられているプラタナスですが、よく使われている種類は限られています。日本では西アジア原産のスズカケノキ（オリエンタリス種）と北アメリカ原産のアメリカスズカケノキ（オッキデンタリス種）の交雑から生まれたモミジバ・スズカケノキがほとんどで、岩見沢市内では北3条、6条東などでこれが植えられています。成長が早く日差しを遮るので、夏の暑さをやわらげる効果があるのですが、葉が大きいと落ち葉と剥がれ落ちた樹皮の後始末が大変という欠点があり、乾いた葉を堆肥にするには難儀します。また強剪定に耐えることが仇になり、街路樹の多くは幹枝をぶつ切りされ、哀れな形を晒しているのが現状です。もしこうした剪定をしなければ、名前の通り、直径3センチほどの果実（瘦果の集まり）が長い柄の先に成ります。修行する山伏の篠懸（すすかけ）という着衣に付ける玉状の飾り（梵天）を鈴懸（すすかけ）と思い込んだ植物学者が、この果実を見てスズカケノキという和名をつけたそうです。ボンテンノキでなくてよかったですね。さてこのプラタナスは干ばつに強く、病虫害は聞いたことがありません。広い草原や大地で背が高く、のびのびと枝を広げてほしい木のひとつです。

(かわはら)

今年こそ育てたい花

早春の小球根類や宿根草などで彩られた自宅のお庭では、薔薇の蕾も膨らんで来て、今月中旬には順次開花へととなります。一年草って、春から秋までお手入れ次第では長く楽しめるからたくさん種類の中から、現存の植物に合わせて植栽できますね。連続開花性は抜群です。アプローチやガーデンテラスに一年草の寄せ鉢を配置して、各種のお手入れや水遣りなど日々のタイムテーブルを決めて、其れが健康管理につながる作業となります。さて今年は、どんな植物をお迎えして庭に彩りを添えることができるのか？狭くても、日陰でも、どんな環境のお庭にでもお気に入りをお近くの園芸店で見つけて植えてみて下さい。私は、1月に種蒔きをして育てた苗キングフィッシャーデージーとモンティアシビリカと言う青とピンク色の一年草を庭で楽しみたいと思います。(たかはし)

ラワンフキ

北海道足寄町に自生している山菜「ラワンフキ」は、国内で最も大きなフキで長さ3m・太さ10cmにもなります。アキタブキの一種で「キク科フキ属」の多年草で、別名「エゾフキ」「オオブキ」と言われ、足寄町の名産品となっています。北海道では人気食材のひとつで、アクが少なく食べやすいのが特徴。ミネラル分が豊富で食物繊維・ポリフェノールを含んだ女性に嬉しい食材です。最盛期を迎える6・7月には、足寄町の「ラワンフキ鑑賞園場」にはその大きさをひと目見ようと多くの見物客が集まります。2015年に九州大学農学部の研究グループがラワンフキが自生している河川水を調査した結果、窒素・リン・カリウム・マグネシウム・カルシウムなどのフキの生育に必要な栄養素が通常の河川の約10倍も多く含まれていることがわかりました。ラワンフキは2001年10月に、次世代に残したい宝物として「北海道遺産」に認定されました。足寄町農業協同組合（JA あしよろ）は「ラワンフキ」のブランド化に取り組み種苗を他市町村に持ち出さないように管理しています。ラワンフキのラワンとは、足寄町の螺湾（ラワン）地域に育つフキで、地名です。(ながやす)

愛情のかけ方

相談コーナーには時々、鉢物を持って相談に来る人がいます。どの方の持って来られる植物もいろいろな原因で元気がありません。バラなど美しく咲いてほしくて高い値段で買ったものなどは、元気がなくなっているとそれが育てている方のストレスの原因になることも。また、お亡くなりになった親しい方から形見として譲り受けたものなどは、愛情過多で大事にしすぎて植物の方にストレスが溜まっていることもあるようです。植物は人間ではないので話しかけるぐらいはいいですが必要以上に葉や株に触りすぎではいけません。無風の室内は時々窓を開けて風も入れてあげてください。水やりは、葉水が好きなのか、乾き気味が好きなのか、その植物が求めることを調べて育ててあげてください。植物との付き合いも人付き合いと同じで先づ相手を知ることが大切で相手によって対応するのが大切だと思います。鉢に植えられた植物が我が家の中で住みやすい環境を見つけ、作ってあげれることが目標です。そうすれば植物は自力で元気になります。(きのした)

クロユリ

5 月から6月にかけて下向きに黒い花を咲かせるクロユリは、ユリ科バイモ属の植物です。北海道型（エゾクロユリ）のほうが草丈は高く40～50cmになることがあり本州の二倍くらいの高さになります。また、本州型（ミヤマクロユリ）は高山に自生しますが、北海道では低地に多く育ち場所も花が咲く時期も若干違います。（高山では7～8月に咲きます）アラスカ、シベリア、サハリンなどにも自生するクロユリは、高温や湿度が高いところでは生育が難しいですが寒さにはとても強い植物です。花色には幅があり黒褐色から黄色い斑点があるもの、緑や黄色みが強いものまでさまざまです。特に花全体が黄色のものをキバナクロユリと呼び、まれに八重咲の花もあります。クロユリは春に芽が出て開花したあと夏前には葉と茎が枯れ地上部は全部なくなり球根で休眠します。あまり知られていませんが花には汗くさいような悪臭があり、英語では「skunk lily（スカンクリリー）」と呼ばれています。この匂いはハエを呼び寄せて受粉をさせるためですが種ができて発芽率はあまりよくなく分球で増やします。(いとう)

赤玉土とは

赤玉土とは、東京周辺の土（関東ローム層）のことです。主に、火山灰が積み重なってできた「赤土」を乾燥させた土のことを指し、褐色で粒状、肥料成分を含んでいないという特徴があります。清潔で弊害がない使い勝手のよさから、園芸やガーデニングの主流の土として知られています。

水はけや水もちのバランスがよい

植物が好む土にはいくつか条件があり、pH 度数、粘度、水はけ（排水性）、水もち（保水性）、肥料もち（保肥性）、通気性などが植物によって土質が変わります。赤玉土は、肥料成分がないため虫や菌が寄り付かない清潔な土で、水はけ、水もち、肥料もちがよいことから、園芸やガーデニングに欠かせない基本用土の1つになっています。大抵の植物は、赤玉土3～8：他の土や肥料2～7の割合で混ぜた土で育てられるといれ、植物の好む生育環境に合わせて土の割合を調節して育てます。植物は、根っこから水や空気を吸って生きているので、土の粒と粒の間には水と空気が必要です。赤玉土は、粒状の土の集合体なので、粒の中や粒同士の隙間に水や空気がたり、植物の根っこがそれを吸収しやすい構造になっています。赤玉はph5～6の弱酸性土です。

チョット
いっぷく



ひとつき ひとバラ



文：田中 伸枝
(いわみざわ公園バラ園)



第百二回

ガリカ ローズ

ロサ ムンディ

Rosa Mundi

作出国：不明

作出者：不明

作出年：1581 年以前

ハーディネスゾーン：Z4

一季咲き

交配：Rosa gallica officinalis の枝変わり

ロサ ムンディは、もっとも古いと云われている絞り模様のバラです。白とピンクの絞り模様、半八重咲きの大輪、黄金色の蕊、ワイルドだけど甘い香り…どれを取ってみても華やかですね。絞り模様といえば当園では‘センチメンタル’や‘ロックンロール’などが人目を惹いています。ロサ ムンディも素敵ですよ。年に一度しか咲かない一季咲き性なので、是非お見逃しなく♪秋にはコロコロのヒップが楽しめます。

『MODERN ROSES12』によると、Rosa gallica officinalis の枝変わりと“推測される”とのこと。しかし近年のスウェーデンの図書にて、DNA 分析で 100%の類似性があることが記述されています。見た目は園芸品種っぽいですが原種に分類され、高い耐病性・耐寒性、さらに耐陰性もあり性質はガリカ ローズそのものです。樹高は 100cm ちょっと位ですがやや横張りとなり、樹勢も強くよく分枝しこんもりと茂り、当園のはとても花付きが良いイメージです。ローメンテナンスで枯枝の除去や枝をすかさず程度の剪定で良いかと思います。一季咲きですが葉の色が美しく健康的なので、生垣のような使い方をしても良いですね。耐陰性を活かして木陰に植えるのも良いかも…もう、妄想がとまりません。

名前の由来は、中世のイングランド王・ヘンリー 2 世の愛人、ロザモンド・クリフォードに由来します。イングランドでは『麗しのロザモンド』として彼女を称える多くの戯曲や詩・肖像画などが描かれ、伝説化しているそうです。名付けられた経緯まではわかりませんでした。ロザモンドという名前が『世界のバラ』という意味を持つそうで、バラを連想しやすかったのかもしれませんが。ロサ ムンディという品種名は別名で、本名は‘Rosa gallica versicolor’。『斑入りのガリカ ローズ』という意味になります。他にも‘La Panachée’：フランス語で『混ぜ合わせた』、‘R. gallica variegata’：『斑入りのガリカ』、‘Variegated Rose’、‘Versicolor’など、絞り模様を謳ったものがほとんどです。たくさん別名があるので入手する際は惑わされないように…。余談ですが、“Variegata”・“Versicolor”どちらも『斑入りの』という意味合いですが、“Variegata”は『雑色の』、“Versicolor”は『色が変わる』というニュアンスがあります。学名によく用いられるラテン語で、もちろんバラ以外にも用いられます。植物や動物の学名は世界共通語ですので、覚えておくと役に立つ時が来るかもしれません。

今月の市民園芸講座のご案内



●6月11日(日) 13:00~15:00 盆栽づくりの楽しさ

料金：材料代 1,000 円 定員：40 名

講師：桑内 彦さん 岩見沢樹石会

●6月17日(土) 10:00~12:00

ばらゼミ④ スタッフが一番花を語る回。

料金：無料 定員：40 名 講師：バラ園スタッフ

●6月24日(土)・7月1日(土) 10:00~

バラ管理スタッフのローズツアー

料金：無料 定員：40 名 講師：バラ園スタッフ

●6月25日(日) 10:00~12:00 バラの美しい写真の写し方

料金：無料 定員：40 名 講師：河野 芳廣さん カメラの理光

持ち物：カメラ(スマホ・コンデジOK)、(あれば)三脚

●7月1日(土) 13:00~15:00 バラ園のバラを使ったアレンジメント

料金：材料代 2,000 円 定員：20 名

講師：大和田 由紀子さん カンガルーファクトリー

持ち物：エプロン、ハサミ

●7月2日(日) 10:00~12:00 バラ園でスケッチしよう

料金：無料 定員：15 名 講師：藤川 志朗さん イラストレーター

持ち物：スケッチブック(普段お使いの物でOK)、絵の具などの着色画材

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご注意ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3~4日位前までに
お申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。